

「もう動かすな原発！福井県民署名」キックオフ集会アピール

なぜ若狭は、世界一の原発密集地帯になったのでしょうか。なぜ福井県の嶺北(人口約 65 万人)ではなく嶺南(人口約 15 万人)に、なぜ関西圏(人口約 1500 万人)ではなく若狭に 15 基もの原発群が集中したのでしょうか。

「フクシマ」の原発震災は、地元住民だけでなく広大な周辺住民から、田畑や山林、海や川、商店街や町工場、役所をはじめ、保育園や学校、病院や福祉施設、神社や寺院、先祖代々の墓地まで奪い、住民や地域の過去の思い出や未来の希望まで奪い尽くしています。

かの福井地裁の判決では、「万一の大事故＝フクシマ」の過酷な現実をふまえて、「250 キロメートル圏内に居住する」住民の請求に応じて、「原子炉を運転してはならない」と言い渡しました。

再稼働をもくろむ電力会社や国や県は、平常時の 1 万倍もの被曝を前提とした避難計画の強行に余念がありません。しかし、判決後の原告団声明でも指摘している通り、「そもそも大電力消費圏による過疎地域への原発群の押し付けという差別的な構造を温存したまま、原発の再稼働や延命を容認することは、もはや許されない」のではないのでしょうか。

今日、「現在を生きる私たちと未来の子どもたちが健康で安心して暮らせるように」、そして「原発をなくして、新しい仕事と雇用を増やす福井県に」するために、「原発の再稼働を認めないでください」と西川知事に要請する県民署名を開始します。県下の 17 市町で、大中小のグループや団体で、あらゆる職場で、インターネットで、署名の意義を深く学び合いながら、多数の県民の「もう動かすな原発！」の意思を表明しましょう。

また、巨大地震に襲われる可能性のある国内すべての原発から「250 キロメートル圏」内外の人々にも支援や協同を呼びかけましょう。

2014 年 8 月 9 日

「もう動かすな原発！福井県民署名」キックオフ集会参加者一同